

日本人は祝日がお好き？

年16日の祝日がある日本は、先進国屈指の「祝日大国」だ。日本貿易振興機構（ジェトロ）の調査では日本の祝日数は、先進7か国（G7）で最多で、2位のイタリアより4日多く、最少の英・イングランド、ウェールズの2倍になる。なぜ多いのか。国民の意識が変わってきたこともあるが、「外圧」や「政治」に左右されてきた歴史も透けて見える。

GHQ認めず

近代に入り、祝日が初めて法令で定められたのは1873年のことだ。当初は年8日で、多くは皇室との関わりが深かった。例えば、2月11日は神武天皇の即位日とされる「紀元節」、11月23日は宮中祭祀の一つ「新嘗祭」と呼ばれていた。

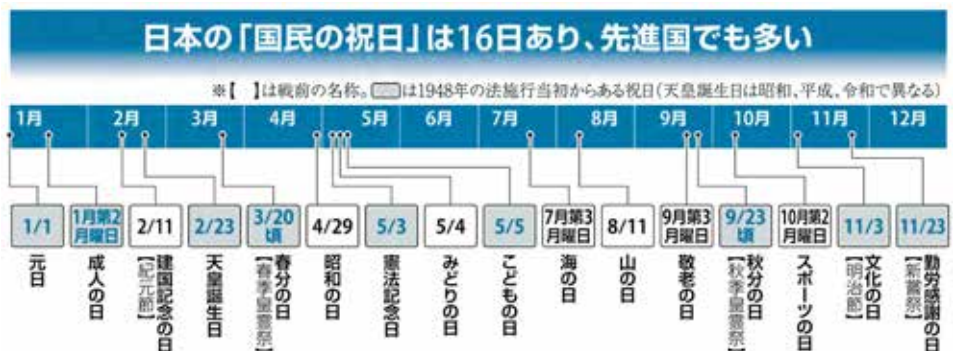
だが、敗戦後、天皇制と結びついた国家神道の廃止を命じた連合国軍総司令部（GHQ）は2月11日の祝日化を認めなかった。11月23日も存続の危機にあったが、「勤労感謝の日」に名を変えることで残った。こうして、1948年制定の祝日法の下、年9日でスタートした。2月11日が「建国記念の日」として祝日に戻ったのは、主権回復後の66年だ。

80年代に入ると再び「外圧」にさらされる。日本人の労働時間の長さが欧米に批判され、政府は86年から、

祝日に挟まれた5月4日を「国民の休日」にした。

2000年に導入された「ハッピーマンデー」では、特定の祝日を月曜日に移し、3連休を作ることになった。観光振興や消費拡大が目的で、今は「成人の日」「スポーツの日」「海の日」「敬老の日」が対象だ。

今年は東京五輪に合わせ「海の日」「スポーツの日」「山の日」が開会式や閉会式の時期に移され、7月に4連休、8月に3連休ができる。多くの国民は歓迎するだろうが、国立歴史民俗博物館の新谷尚紀・名誉教授（民俗伝承学）は「政治が国民の支持を集めるため、祝日を都合良く利用し過ぎている側面もある。本来の祝祭的な意味が薄れてきているのでは」と危ぶむ。



(2021年5月8日 読売新聞朝刊より)

1 「国民の休日」は、現在なんという名称で呼ばれていますか。

2 ハッピーマンデーはどのような目的で導入されましたか。9字で書きましょう。

3 記事では、日本の休日が「外圧に左右されてきた」具体例として、2月11日と11月23日、5月4日を挙げて説明しています。それぞれが祝日になるまでに、どのような外圧があったのでしょうか。記事中の言葉を使って、それぞれ20字以内で次の表の空欄を埋めましょう。

	外 圧										祝日になった年
2月11日											1966年
11月23日	GHQが名称を変えるよう求めた										1948年
5月4日											1986年